

常日頃より、阪急電鉄をご愛顧賜り、誠にありがとうございます。沿線のお客様をはじめ、社会の皆様のご支援により、昨年10月19日に創立100周年を迎えることができました。阪神淡路大震災等の幾多の困難な出来事を乗り越えながら、一世紀に亘る歴史を築き上げることができましたのも、ひとえにお客様や社会の皆様のおかげでございます。この場をお借りして謹んで御礼申し上げます。

当社は、皆様に愛される鉄道を目指し、安全の確保を最優先して、先進的な技術の導入や安全意識の醸成に向けた施策を積極的に取り入れ、公共交通機関の使命を果たすべく全力で取り組んでまいりました。2006年10月には、阪急阪神ホールディングスが誕生し、新たに「安心」「快適」「夢」「感動」をキーワードにした同グループの経営理念を設け、当社も目指すべき姿を共有して実現に向けて取り組んでいます。

2007年10月19日、次の100年に向けて第一歩を踏み出したわけですが、私たちは「すべてはお客様のために」という原点を忘れずに、これからも安全輸送を継続することが最重要課題であると考えています。特に、鉄道事業に係る施策は、過去の経験を踏まえ安全性を高めてきましたが、今後も安全の確保に完成形はないと捉え、さらなる安全性の充実及び向上のため、全社一丸となって取り組んでまいります。

2008年度は、ATS装置の機能向上やホーム及び踏切に関する保安度向上等に取り組むとともに、さらなる安全性向上を目指して「運転保安向上検討会」を発足いたしました。この検討会では、運転をはじめとする各部門が横断的に結集して、将来に向けての保安度向上策の研究に取り組んでまいります。また、ハード面だけでなく、ソフト面の更なる充実も重点課題と捉え、安全輸送を根幹で支える係員一人ひとりの知識技能の向上にも取り組んでまいります。

今後とも、お客様第一・安全最優先の強い信念を持って業務に邁進するとともに、これまで培った安全輸送に関する技術や知識等を確実に後継者に伝承し、Plan（計画）、Do（行動）、Check（確認）、Action（改善）のサイクルを機能させて、一步先の安全をご提供できるよう、そしてさらにお客様に愛される会社に築き上げるよう努めてまいります。

阪急電鉄株式会社取締役社長

角 和夫

